

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 尾道市立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人尾道市立大学 |

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

| 学部名 | 学科名 | 夜間・通信制の場合 | 実務経験のある教員等による授業科目の単位数 | | | | 省令で定める基準単位数 | 配置困難 |
|--------|--------|-----------|-----------------------|---------|------|-----|-------------|------|
| | | | 全学共通科目 | 学部等共通科目 | 専門科目 | 合計 | | |
| 経済情報学部 | 経済情報学科 | 夜・通信 | 30 | 0 | 34 | 64 | 13 | |
| 芸術文化学部 | 日本文学科 | 夜・通信 | | 0 | 10 | 40 | 13 | |
| | 美術学科 | 夜・通信 | | 0 | 96 | 126 | 13 | |
| (備考) | | | | | | | | |

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

| |
|---|
| https://www.onomichi-u.ac.jp/campus_life/syllabus.html?node_id=398 |
|---|

3. 要件を満たすことが困難である学部等

| |
|-----------|
| 学部等名 |
| (困難である理由) |

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 尾道市立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人尾道市立大学 |

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.onomichi-u.ac.jp/daigakugaiyou/about/consult.html?node_id=1274

2. 学外者である理事の一覧表

| 常勤・非常勤の別 | 前職又は現職 | 任期 | 担当する職務内容 や期待する役割 |
|----------|---------------------|----|---------------------|
| 非常勤 | アンデックス株式会社 代表取締役 | 2年 | 経営 |
| 非常勤 | 広島大学名誉教授 | 2年 | 教育研究 |
| (備考) | | | |

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 尾道市立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人尾道市立大学 |

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

| | | | | | | | | | | | | | |
|--|---|--------|------|---|-------------------|---|-------------------|--------|---|---|---|---|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 | | | | | | | | | | | | | |
| (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) <ul style="list-style-type: none"> ・前年10月頃：学内の教務担当の委員会で次年度のシラバスに関する方針を検討、決定する。 ・前年11月～1月頃：授業担当教員にシラバスの作成を依頼、作成する。 ・1月～3月上旬：シラバスの内容を事務局が中心となり確認し、必要に応じて修正する。 ・3月下旬頃：学内、学外にシラバスを公開する。 | | | | | | | | | | | | | |
| 授業計画書の公表方法 | https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_lesson/index.html?node_id=477 | | | | | | | | | | | | |
| 2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 | | | | | | | | | | | | | |
| (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスの「学生に対する評価」において、あらかじめ学生に授業科目の客観的な評価基準を示している。授業担当教員は「学生に対する評価」に基づき、厳格かつ適正に単位の授与を行っている。 なお、単位の授与について疑義のある学生には「成績不服申し立て制度」により自己の意見を述べる機会を与え、単位授与の質向上を目指している。 | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 | | | | | | | | | | | | | |
| (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 各学生の履修科目の平均成績を客観的に示すために、GPAによる成績評価を行っている。10段階評価とGPAの成績点との対応や算出方法は次のとおりです。 | | | | | | | | | | | | | |
| <table border="1"> <tr> <td>10段階評価</td> <td>10、9</td> <td>8</td> <td>7</td> <td>6</td> <td>5以下及び履修したが受験しない場合</td> </tr> <tr> <td>GPA成績点</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> </table> | | 10段階評価 | 10、9 | 8 | 7 | 6 | 5以下及び履修したが受験しない場合 | GPA成績点 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 |
| 10段階評価 | 10、9 | 8 | 7 | 6 | 5以下及び履修したが受験しない場合 | | | | | | | | |
| GPA成績点 | 4 | 3 | 2 | 1 | 0 | | | | | | | | |
| GPA=(単位数×GPA成績点)の合計÷単位数合計 | | | | | | | | | | | | | |
| 客観的な指標の算出方法の公表方法 | https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_valuation.html?node_id=478 | | | | | | | | | | | | |
| 4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 | | | | | | | | | | | | | |

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【全学共通】

各学部・学科の教育目標に沿って制定された専門教育科目と全学の学生が身につけるべき素養を育むための教養教育科目を履修し、厳格な成績評価を経て所定の単位を修得したと認められる人について卒業の認定を行い、学生の学位を授与している。

【経済情報学部経済情報学科】

経済情報学部では、以下の諸能力を身につけ、かつ各コース所定の卒業要件を満たした人の卒業を認定している。

- ・尾道市立大学での「知と美」の学びを中心とした出会いを基礎に、人生の課題の発見・解決のため、生涯学び続ける能力を身につけている人
- ・経済・経営・情報の3分野に関する専門的知見を、人間・社会・自然に関する他分野の学問的知見と組み合わせることで、高度に情報化した現代経済社会の意味を探究する能力を身につけている人
- ・経済・経営・情報の3分野に関する専門的知識および基礎的技能を修得し、それらを活用して現代の経済社会を多面的に理解し、家庭・企業・地域等で活躍する能力を身につけている人
- ・専門的知識・技能と、日本語および外国語によるコミュニケーション能力とを高めることで、日本や世界の諸問題の解決に寄与する能力を身につけている人

(経済コース)

- ・全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学習力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている人
- ・学科における経済・経営・情報3分野の体系的学習を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、日本経済・世界経済の現状と動向を理論的に把握できる能力を身につけている人
- ・経済コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経済・金融・統計に関する専門知識を習得し、実社会で、それらを基礎に現実の問題や課題を分析し、改善策や解決方法を提示できる能力を身につけている人

(経営コース)

- ・全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学習力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている人
- ・学科における経済・経営・情報3分野の体系的学習を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、経済・経営に関わる情報・データを適切な方法で収集・分析し、課題の発見や解決に取り組む能力を身につけている人
- ・経営コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経営・会計に関する専門知識を習得し、実社会で適用可能な経営管理能力、経営改善策・経営戦略の立案能力、問題解決のための実践力を身につけている人

(情報コース)

- ・全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学習力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている人
- ・学科における経済・経営・情報3分野の体系的学習を通じて、現代の高度情報化社会の仕組みを理解し、情報化社会で生きていくために必要な経済・経営・情報のリテラシーを身につけている人
- ・情報コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、情報科学・情報工学に関する専門知識を習得し、高度な情報技術を駆使することによって、情報社会における課題を発見・分析し、その解決に取り組む能力を身につけている人

【芸術文化学部日本文学科】

日本文学科は、本学科の教育目標に到達した、以下の要件を満たす学生に対して「学士(日本文学)」を授与している。

- ・所定の期間在学し、学科の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数(124 単位) を修得した人
- ・テキストの精読や実地調査と関係資料の精査をもとに、自らの見解を明確に提示した卒業論文を提出し、その審査と口頭試問に合格した人(文芸創作もこれに準じる)
- ・豊かな人間性と高い倫理観をもち、本学科で身につけた、自ら問題を発見し解決する知恵と力をもって積極的に社会に貢献できる人

【芸術文化学部美術学科】

美術学科では、美術における専門家として持続的な造形活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としている。このことを踏まえ、所定卒業単位の取得と卒業制作に加え、以下の能力を身につけた学生に対し、学位を授与している。

- ・専門分野の基礎的な知識や技術を習得し、自己表現の可能性を積極的に探究できる力
- ・創作活動を継続的に行う能力や意欲
- ・美術を学んだことにより身につけた視点やコミュニケーション能力を、社会や自己における新たな問題発見や解決につなげていける展開力や応用力

| | |
|------------------|---|
| 卒業の認定に関する方針の公表方法 | https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_valuation.html?node_id=478 |
|------------------|---|

様式第 2 号の 4 - ① 【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第 2 号の 4 - ②を用いること。

| | |
|------|--------------|
| 学校名 | 尾道市立大学 |
| 設置者名 | 公立大学法人尾道市立大学 |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|---|
| 貸借対照表 | https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00035903/R1_zaimu.pdf |
| 収支計算書又は損益計算書 | https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00035903/R1_zaimu.pdf |
| 財産目録 | — |
| 事業報告書 | https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00036047/R1_businessreport.pdf |
| 監事による監査報告(書) | https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00035927/kansa_R1.pdf |

2. 事業計画(任意記載事項)

| |
|---|
| 単年度計画(名称:公立大学法人尾道市立大学令和 2 年度年度計画 対象年度: R2) |
| 公表方法: https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00036160/2020_plan.pdf |

中長期計画（名称：公立大学法人尾道市立大学第二期中期計画 対象年度：H30～R5 ）

公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00028073/hojinjoho_goal2.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00021845/20160324_hyoka_jiko.pdf

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法：

https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00021838/20160324_hyoka_report.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

| |
|---|
| 学部等名 経済情報学部経済情報学科 |
| 教育研究上の目的（公表方法： https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007535/purpose.pdf ） |
| （概要）経済情報学部は、多様な価値や文化に対する深い理解を背景に、経済、経営、情報に関する優れた専門能力を持ち、国内外で活躍できる有為な人材を養成することを目的とする。 |
| 卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007474/diplomapolicy.pdf ） |
| <p>（概要）</p> <p>経済情報学部では、以下の諸能力を身につけ、かつ各コース所定の卒業要件を満たした人の卒業を認定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾道市立大学での「知と美」の学びを中心とした出会いを基礎に、人生の課題の発見・解決のため、生涯学び続ける能力を身につけている人 ・経済・経営・情報の 3 分野に関する専門的知見を、人間・社会・自然に関する他分野の学問的知見と組み合わせることで、高度に情報化した現代経済社会の意味を探究する能力を身につけている人 ・経済・経営・情報の 3 分野に関する専門的知識および基礎的スキルを修得し、それらを活用して現代の経済社会を多面的に理解し、家庭・企業・地域等で活躍する能力を身につけている人 ・専門的知識・技能と、日本語および外国語によるコミュニケーション能力とを高めることで、日本や世界の諸問題の解決に寄与する能力を身につけている人 <p>（経済コース）</p> <p>経済コースでは、以下の諸能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した人の卒業を認定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学習力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている人 ・学科における経済・経営・情報 3 分野の体系的学習を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、日本経済・世界経済の現状と動向を理論的に把握できる能力を身につけている人 ・経済コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経済・金融・統計に関する専門知識を習得し、実社会で、それらを基礎に現実の問題や課題を分析し、改善策や解決方法を提示できる能力を身につけている人 <p>（経営コース）</p> <p>経営コースでは、以下の諸能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した人の卒業を認定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学習力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている人 ・学科における経済・経営・情報 3 分野の体系的学習を通じて、経済社会・企業社会・情報社会の仕組みを理解し、経済・経営に関わる情報・データを適切な方法で収集・分析し、課題の発見や解決に取り組む能力を身につけている人 ・経営コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、経営・会計に関する専門知識を習得し、実社会で適用可能な経営管理能力、経営改善策・経営戦略の立案能力、問題解決のための実践力を身につけている人 <p>（情報コース）</p> <p>情報コースでは、以下の諸能力を身につけ、かつ所定の単位を修得した人の卒業を認定します。</p> |

- ・全学・全学部共通カリキュラムの履修を通じて、基礎的な学習力を養い、人間・社会・自然に対する探究心と深い理解力を身につけている人
- ・学科における経済・経営・情報3分野の体系的学習を通じて、現代の高度情報化社会の仕組みを理解し、情報化社会で生きていくために必要な経済・経営・情報のリテラシーを身につけている人
- ・情報コースの配置諸科目や専門演習の履修を通じて、情報科学・情報工学に関する専門知識を習得し、高度な情報技術を駆使することによって、情報社会における課題を発見・分析し、その解決に取り組む能力を身につけている人

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007467/curriculumpolicy.pdf）

（概要）

経済情報学部では、教養教育等で育まれた多様な価値・文化に対する深い理解を基礎にして、経済・経営・情報の3分野にまたがる基礎的知識・技能を養うとともに、経済・経営・情報のコースごとに、より高度の知識・技能の習得をはかることができるように体系的に専門教育課程を編成します。

（経済コース）

- 経済コースでは、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。
- ・他のコースのコア科目を積極的に履修させ、経済・経営・情報の3分野の基本的な知識と複眼的な発想力を身につけられるようにします。
 - ・スタンダードな内容を体系的に講義することで、各種資格試験や公務員試験、大学院進学に必要とされる学士課程の学力レベルを保証します。
 - ・生活に関わる諸問題を経済学的に把握・分析する「経済的思考力」を持ち、統計の理論や技法を理解し、金融リテラシーを身につけた「数字に強い」学生を養成します。
 - ・経済分野の知識の活用能力、探究心、問題解決力、異世代・異文化とのコミュニケーション能力などの諸能力を養成するために、実践的科目を配置し、少人数授業を実施します。
 - ・卒業論文等の作成を通じて、経済制度や経済政策のもたらす結果を評価し、制度設計や経済政策を立案する能力を身につけられるようにします。

（経営コース）

- 経営コースでは、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。
- ・経営学を中心に専門的な方法論と知識を体系的に学べるようにします。
 - ・経営分野の知識の活用能力、探究心、問題解決力、コミュニケーション能力など、経済社会及び企業活動において必須となる諸能力を養成するために、実践的科目を配置し、少人数授業を実施します。
 - ・経営分野だけでなく、経済や情報科学分野の科目を履修することができ、学際的な視点を養います。
 - ・地域に密着した経営問題をテーマとする卒業研究を奨励し、丁寧な個別指導を行います。

（情報コース）

- 情報コースでは、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成しています。
- ・情報系の科目を中心に、経済学、経営学の基本的な内容についても学習し、人間の営みにおいて、情報技術を効果的に活用できる能力を身につけられるようにします。
 - ・豊富な実習科目を提供することにより、教員から学ぶだけでなく、自律的に学習する場と、学生間で共に学び合う機会を与えます。
 - ・表計算ソフトなどにより、データ分析や経済・経営のシミュレーションを行う能力を身につけ、意思決定において有益な指針を与えられる能力を養成します。
 - ・オブジェクト指向プログラミング言語などを習得し、情報システムを設計・開発する能力を身につけられるようにします。
 - ・情報システムや情報ネットワークの構築をはじめ、それらの活用をテーマにした卒業研究を奨励し、丁寧な個別指導を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007450/admissionpolicy.pdf）

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>経済情報学科は、経済、経営、そして情報の3分野を併せて学ぶことを特徴とし、基礎的理論と実践的・応用的知識を兼ね備え、現代社会のニーズに応えられる人材の育成を目標としています。</p> <p>このような教育理念・目標に基づき、経済情報学科は以下のような人を求めています。</p> <p>(経済系に関心のある人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の経済現象や経済全体の基礎的考え方や理論を理解し、また各種資料、経済統計を活用して、実際の経済を考察、分析したい人 ・ 経済学の知識を統合して、経済問題を世界的観点から考え、責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人。また、経済学の知識を活かした社会貢献・地域貢献を考えている人 <p>(経営系に関心のある人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業の仕組みを理解し、実際の企業行動の分析などに興味がある人 ・ 経済社会の主役は企業である現実を直視して、責任ある選択・意思決定ができるようになりたい人。また、企業の社会的責任に関心があり、社会貢献や地域貢献を考えている人 ・ 企業の経済活動を記録・計算して経営活動の成果を外部に報告する仕組みの理解や、会計データを企業の経営管理に役立たせるための知識や知恵の修得をめざす人 <p>(情報系に関心のある人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代社会の基盤となっている情報システムネットワークの基本原理を学び、経済社会の諸課題を解決する情報システムの設計から運用までを担当する能力を身につけたい人 ・ 情報関連の企業・組織における研究開発、企業等の組織における情報システムの管理・運用、企業等の組織における情報システムを駆使した経営への参画において活躍することをめざす人 |
|---|

| |
|--|
| <p>学部等名 芸術文化学部日本文学科</p> |
| <p>教育研究上の目的 (公表方法 : https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007535/purpose.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>芸術文化学部は、日本や世界の芸術文化に対する深い認識と理解を有し、優れた徳性と高い知性を持って文化活動や社会活動に能動的に参加し、現代の国際化社会や情報化社会の要請に応えられる十分な教養を具え、国際社会や地域社会の創造と発展に寄与する人材の育成を目的とする。</p> <p>日本文学科は、しっかりとした基礎学力の上に、広く芸術や文化を学びながら日本文学と日本語学の専門分野での研究を深め、構想力、論理的思考力、分析力を身に付けた研究者、教育者や社会のリーダー等を育成することを目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針 (公表方法 : https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007511/policy_jl.pdf)</p> |
| <p>(概要)</p> <p>日本文学科は、本学科の教育目標に到達した、以下の要件を満たす学生に対して「学士(日本文学)」を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所定の期間在学し、学科の教育理念・教育目標に沿って設定した授業科目を履修して基準となる単位数(124単位)を修得した人 ・ テキストの精読や実地調査と関係資料の精査をもとに、自らの見解を明確に提示した卒業論文を提出し、その審査と口頭試問に合格した人(文芸創作もこれに準じる) ・ 豊かな人間性と高い倫理観をもち、本学科で身につけた、自ら問題を発見し解決する知恵と力をもって積極的に社会に貢献できる人 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法 : https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007511/policy_jl.pdf)</p> |

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>日本文学科は、次のように教育課程を編成し、実施します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次に必修科目として概論と基礎演習を置き、日本語・日本文学・中国文学・欧米文学に関する基本的な知識と研究方法を修得させる。 ・ 2年次以降の選択科目として専門演習を置き、少人数の双方向教育により自ら学び・考える力を養成する。 ・ 多種多数の専門教育科目を各年次に配置し、日本語と日本文学を中心とする学習の拡充と深化を図る。 ・ 専門教育科目と連携させた多様な教養教育科目を各年次に配置することで、幅広い視野と豊かな人間性を養成する。 |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007511/policy_jl.pdf）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>日本文学科は、以下のような入学者を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 従前の教育課程等において十分な国語の力を身につけた人 ・ 知的探究心をもち、日本語・日本文学を深く研究していきたい人 ・ 対象を冷静に観察し、論理的に考察することができる人 ・ 文学作品のもつ多様な価値観を柔軟に受け止められる人 ・ 文章読解力と文章表現力を高め、その力を発揮していきたい人 |
| <p>学部等名 芸術文化学部美術学科</p> |
| <p>教育研究上の目的（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007535/purpose.pdf）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>芸術文化学部は、日本や世界の芸術文化に対する深い認識と理解を有し、優れた徳性と高い知性を持って文化活動や社会活動に能動的に参加し、現代の国際化社会や情報化社会の要請に応えられる十分な教養を具え、国際社会や地域社会の創造と発展に寄与する人材の育成を目的とする。</p> <p>美術学科は、美術についての学識と高い表現能力を養い、充実した創作活動を行う作家及びデザイナーを養成することを目的とする。</p> |
| <p>卒業の認定に関する方針（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007481/policy_art.pdf）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>美術学科では、美術における専門家として持続的な造形活動に携わり、地域や社会の文化・芸術に寄与する人材の輩出を目標としています。このことを踏まえ、所定卒業単位の取得と卒業制作に加え、以下の能力を身につけた学生に対し、学位を授与します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門分野の基礎的な知識や技術を習得し、自己表現の可能性を積極的に探究できる力 ・ 創作活動を継続的に行う能力や意欲 ・ 美術を学んだことにより身につけた視点やコミュニケーション能力を、社会や自己における新たな問題発見や解決につなげていける展開力や応用力 |
| <p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007481/policy_art.pdf）</p> |
| <p>(概要)</p> <p>1年次は、基礎実技を重視して基本的な造形能力を養います。全員が共通課題として、デッサン基礎実習、構成実習、彫刻実習を行います。つぎに3つのコース課題（日本画・油画・デザイン／総合基礎実習）を体験します。その後、各自志望コースの課題を選択実習し、自己の資質と方向性を吟味します。2年次からは3つのコースに分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の修得に力を注ぎます。</p> |
| <p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：https://www.onomichi-u.ac.jp/_files/00007481/policy_art.pdf）</p> |

| |
|---|
| <p>(概要)</p> <p>美術学科は、純粋芸術である日本画・油画と、社会生活と密着したデザインの3コースで構成されています。学生諸君の美に寄せる豊かな個性を尊重しつつ、各ジャンルにおける専門的な実技教育を行い、画家やデザイナーとして、或いは美術教員・学芸員として、持続的な造形活動に携わる人材の輩出を目指しています。このような教育理念・目標に基づき、美術学科は以下のような人を求めています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 美術への広い視野を常に持ち、自らの能力を高めていこうとする意欲の強い人 ・ 自らの信念を持ち、将来にわたってそれを持続していける人 ・ 自己の可能性を信じ、その具現化に対しての努力を惜しまない人 |
|---|

②教育研究上の基本組織に関すること

| |
|---|
| <p>公表方法： https://www.onomichi-u.ac.jp/daigakugaiyou/about/system.html?node_id=70</p> |
|---|

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

| a. 教員数（本務者） | | | | | | | |
|-------------------------------------|--------|--|-------------|----|----|-----------|------|
| 学部等の組織の名称 | 学長・副学長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 助手 その他 | 計 |
| — | 3人 | — | | | | | 3人 |
| 経済情報 | — | 10人 | 14人 | 3人 | — | — | 27人 |
| 芸術文化 | — | 16人 | 8人 | 3人 | — | 3人 | 30人 |
| その他 | — | — | — | 2人 | — | — | 2人 |
| b. 教員数（兼務者） | | | | | | | |
| 学長・副学長 | | | 学長・副学長以外の教員 | | | | 計 |
| 人 | | | 118人 | | | | 118人 |
| 各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等） | | 公表方法： https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_teacher/teacher/index.html?node_id=809 | | | | | |
| c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項） | | | | | | | |
| | | | | | | | |

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

| a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等 | | | | | | | | |
|-------------------------|-------------|-------------|------|-------------|-------------|------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学定員 (a) | 入学者数 (b) | b/a | 収容定員 (c) | 在学生数 (d) | d/c | 編入学 定員 | 編入学 者数 |
| 経済情報 | 200人 | 223人 | 111% | 800人 | 955人 | 119% | 人 | 6人 |
| 芸術文化 | 100人 | 115人 | 115% | 400人 | 464人 | 116% | 人 | 人 |
| 合計 | 300人 | 342人 | 114% | 1,200人 | 1,419人 | 118% | 人 | 6人 |
| (備考) | | | | | | | | |

| b. 卒業生数、進学者数、就職者数 | | | | |
|----------------------|----------------|--------------|-------------------|---------------|
| 学部等名 | 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 (自営業を含む。) | その他 |
| 経済情報 | 232人 (100%) | 4人 (2%) | 211人 (91%) | 17人 (7%) |
| 芸術文化 | 105人 (100%) | 9人 (9%) | 76人 (72%) | 20人 (19%) |
| 合計 | 337人 (100%) | 13人 (4%) | 287人 (85%) | 37人 (11%) |
| (主な進学先・就職先) (任意記載事項) | | | | |
| (備考) | | | | |

| c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項) | | | | | |
|---|-------------|-----------------|-----------|-----------|-----------|
| 学部等名 | 入学者数 | 修業年限期間内 卒業生数 | 留年者数 | 中途退学者数 | その他 |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| 合計 | 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (備考) | | | | | |

⑤ 授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

| (概要) |
|---|
| ●前年 10 月頃：学内の教務担当の委員会で次年度のシラバスに関する方針を検討、決定する。 |
| ●前年 11 月～1 月頃：授業担当教員にシラバスの作成を依頼、作成する。 |
| ●1 月～3 月上旬：シラバスの内容を事務局が中心となり確認し、必要に応じて修正する。 |
| ●3 月下旬頃：学内、学外にシラバスを公開する。 |

⑥ 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

| (概要) | | | | |
|--|------|-----------|----------------------|-----------------------|
| シラバスの「学生に対する評価」において、あらかじめ学生に授業科目の客観的な評価基準を示している。授業担当教員は「学生に対する評価」に基づき、厳格かつ適正に単位の授与を行っている。単位の授与について疑義のある学生は「成績不服申し立て制度」により自己の意見を申し出ることが出来る。 | | | | |
| 学部名 | 学科名 | 卒業に必要な単位数 | GPA制度の採用 (任意記載事項) | 履修単位の登録上限 (任意記載事項) |
| 経済情報 | 経済情報 | 128 単位 | 有・無 | 単位 |
| 芸術文化 | 日本文学 | 124 単位 | 有・無 | 単位 |
| | 美術 | 124 単位 | 有・無 | 単位 |

| | |
|----------------------------|-------|
| GPAの活用状況（任意記載事項） | 公表方法： |
| 学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項） | 公表方法： |

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

| |
|--|
| 公表方法： https://www.onomichi-u.ac.jp/kohyo/about_enviromental.html?node_id=479 |
|--|

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

| 学部名 | 学科名 | 授業料 (年間) | 入学金 | その他 | 備考（任意記載事項） |
|------|------|-------------|--------------------------------|-----|------------|
| 経済情報 | 経済情報 | 535,800円 | 尾道市内 282,000円 尾道市外 423,000円 | 円 | |
| 芸術文化 | 日本文学 | | | 円 | |
| | 美術 | | | 円 | |

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

| |
|--|
| <p>a. 学生の修学に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>【全学科共通】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●指導教員（チューター）を中心にして経済情報学科、美術学科は10名程度、日本文学科は5名程度のグループを作り、同級生や先輩・後輩との絆を深めていく制度を設けている。チューターは学生のグループの相談相手となることや、学生生活上の指導をしている。 ●経済的理由や風水害等の災害を受けたことなどにより、授業料の納付が困難な学業成績が良好な学生に対して、学修意欲の更なる向上を目的として、給付型の奨学金を設けている。 ●経済情報学科、日本文学科の教員は学業その他の相談を受けるため、日時を決めて研究室で待機するオフィスアワーを設けている。美術学科の教員は随時対応している。 ●修学活動助成制度を設けて、学生の学外研修や学会発表、展覧会視察等への助成を行っている。 <p>【経済情報学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1年次の必修科目である基礎演習Ⅰにおいて指導教員（チューター）が大学生として必要なアカデミックスキルを伝授している。 ●1年次より定期的に自己の振り返りとして、「自己評価カルテ（マイステップ）」の作成を義務付けている。指導教員が内容を確認して、コメントをすることで、学生にフィードバックしている。 ●3年次からの「専門演習（ゼミ）」では指導教員のもと、卒業研究の準備、作成に取り組んでいる。 ●修学上問題のある学生については、学部長、指導教員を中心に個別面談を実施し、該当学生の状況を把握している。 <p>【日本文学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●きめ細かくパフォーマンスを評価するため各種ルーブリックを充実させ、活用している。 ●日文ポートフォリオへの記録を義務付け、データを蓄積している。また、日文ポートフォリオを活用して、チューター、ゼミ担当による面談を各期初めに行っている。 ●チューター制度に加え、学年担当教員（各学年3名）を決め、その中から、問題を抱えている学生の課題を整理し、対応を統括する担当者を設けている。 <p>【美術学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1年次には基礎実技を重視して基本的な造形能力を養うため、全員が共通課題として、 |
|--|

| |
|--|
| <p>デッサン基礎実習、彫刻実習と3つのコース課題を体験させている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●2年次からは3つのコースに分かれ、1年次で学んだ基礎力を踏まえて、それぞれの分野の知識や技術の習得に力を注いでいる。 ●個々の学生を適切に把握するため、巡回指導や面談を行い、コース会議、学科会議などで情報を共有している。 |
| <p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●1年次からキャリア教育を授業科目に入れ、卒業後の社会的自立に向けて、主体的に取り組む姿勢を身につける。 ●就職実践講座、就職ガイダンス・業界セミナーなど年間を通じて実施している。また、より専門性を活かし社会で活躍できるよう、美術学科向けキャリア開発セミナーを開催している。 ●全学年を対象に、進路選択・就職活動に向けた実力養成のための課外講座を各種開講（例：公務員受験対策、情報技術資格対策など）している。 ●在学中に国家資格などの資格を取得した学生に対し奨励金を給付する「資格取得奨励金給付制度」を設けている。 ●本学独自開拓先を含め、インターンシップ（事前・事後学習を含む）を推進し、職業観・就業意識の養成と適切な職業選択への指導をしている。 |
| <p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●医務室では、応急処置、健康診断、健康相談や生活上の相談、学生相談、大学生活に関する保険のサポートを行っている。 ●臨床心理士によるカウンセリングを週2回行っている。臨床心理士、教員、教務係等を中心に、適宜カンファレンスを実施し、情報を共有し、問題解決に取り組んでいる。 ●修学上の配慮が必要な学生に対しては、障害学生修学支援委員会が中心となり、必要な配慮を行っている。 ●担当の教職員が相談窓口となり、公正・公平な立場でハラスメントに関する相談を受け付けている。また、定期的に学生・教職員向けの研修会を実施し、知識の醸成、意識付けを行っている。 |

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

| |
|---|
| <p>公表方法： https://www.onomichi-u.ac.jp/research/reserch_report/index.html?node_id=625</p> |
|---|

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|--|
| 学校名 | |
| 設置者名 | |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 人 | 人 | 人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 人 | 人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 人 | 人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 人 | 人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 人 |
| 合計（年間） | | | | 人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|---|
| 年間 | 人 |
|----|---|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|--|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 人 | 人 | 人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下) | 人 | 人 | 人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 人 | 人 | 人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 人 | 人 | 人 |
| 計 | 人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|---|---|---|-----|---|
| 年間 | 人 | 前半期 | 人 | 後半期 | 人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|---|
| 退学 | 人 |
| 3月以上の停学 | 人 |
| 年間計 | 人 |

| |
|------|
| (備考) |
|------|

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|---|
| 3月未満の停学 | 人 |
| 訓告 | 人 |
| 年間計 | 人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下) | 人 | 人 | 人 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | 人 | 人 |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 人 | 人 | 人 |
| 計 | 人 | 人 | 人 |

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

| | |
|------|--|
| 学校名 | |
| 設置者名 | |

1. 財務諸表等

| 財務諸表等 | 公表方法 |
|--------------|------|
| 貸借対照表 | |
| 収支計算書又は損益計算書 | |
| 財産目録 | |
| 事業報告書 | |
| 監事による監査報告（書） | |

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

| 分野 | | 課程名 | 学科名 | 専門士 | 高度専門士 | | |
|----------|----|---------------------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----|
| 修業 年限 | 昼夜 | 全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数 | 開設している授業の種類 | | | | |
| | | | 講義 | 演習 | 実習 | 実験 | 実技 |
| 年 | | 単位時間／単位 | 単位時間 ／単位 | 単位時間 ／単位 | 単位時間 ／単位 | 単位時間 ／単位 | |
| | | | 単位時間／単位 | | | | |
| 生徒総定員数 | | 生徒実員 | うち留学生数 | 専任教員数 | 兼任教員数 | 総教員数 | |
| 人 | | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | |

| |
|----------------------------------|
| カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画） （概要） |
| 成績評価の基準・方法 （概要） |
| 卒業・進級の認定基準 （概要） |
| 学修支援等 （概要） |

| 卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載） | | | |
|-----------------------------|-----------|-------------------|-----------|
| 卒業生数 | 進学者数 | 就職者数 （自営業を含む。） | その他 |
| 人 (100%) | 人 (%) | 人 (%) | 人 (%) |
| (主な就職、業界等) | | | |
| (就職指導内容) | | | |
| (主な学修成果（資格・検定等）) | | | |
| (備考)（任意記載事項） | | | |

| 中途退学の現状 | | |
|--------------------|----------------|-----|
| 年度当初在学者数 | 年度の途中における退学者の数 | 中退率 |
| 人 | 人 | % |
| (中途退学の主な理由) | | |
| (中退防止・中退者支援のための取組) | | |

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

| 学科名 | 入学金 | 授業料 (年間) | その他 | 備考 (任意記載事項) |
|---------------|-----|-------------|-----|-------------|
| | 円 | 円 | 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| | 円 | 円 | 円 | |
| 修学支援 (任意記載事項) | | | | |
| | | | | |

b) 学校評価

| | | |
|---|----|----|
| 自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) | | |
| 学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) | | |
| 学校関係者評価の委員 | | |
| 所属 | 任期 | 種別 |
| | | |
| | | |
| | | |
| 学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) | | |
| 第三者による学校評価 (任意記載事項) | | |
| | | |

c) 当該学校に係る情報

| |
|-----------------------------|
| (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) |
|-----------------------------|

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請の場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

| | |
|------|--|
| 学校名 | |
| 設置者名 | |

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

| | | 前半期 | 後半期 | 年間 |
|--------------------|------|-----|-----|----|
| 支援対象者（家計急変による者を除く） | | 人 | 人 | 人 |
| 内 訳 | 第Ⅰ区分 | 人 | 人 | |
| | 第Ⅱ区分 | 人 | 人 | |
| | 第Ⅲ区分 | 人 | 人 | |
| 家計急変による支援対象者（年間） | | | | 人 |
| 合計（年間） | | | | 人 |
| (備考) | | | | |

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|----|---|
| 年間 | 人 |
|----|---|

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

| | 右以外の大学等 | | |
|--|---------|-----|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修業年限で卒業又は修了できないことが確定 | 人 | 人 | 人 |
| 修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間が標準時間数の5割以下) | 人 | 人 | 人 |
| 出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況 | 人 | 人 | 人 |
| 「警告」の区分に連続して該当 | 人 | 人 | 人 |
| 計 | 人 | 人 | 人 |
| (備考) | | | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

| 右以外の大学等 | | 短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。） | | | |
|---------|---|---|---|-----|---|
| 年間 | 人 | 前半期 | 人 | 後半期 | 人 |
| | | | | | |

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

| | |
|---------|---|
| 退学 | 人 |
| 3月以上の停学 | 人 |
| 年間計 | 人 |

| |
|------|
| (備考) |
|------|

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

| | |
|---------|---|
| 3月未満の停学 | 人 |
| 訓告 | 人 |
| 年間計 | 人 |
| (備考) | |

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

| | 右以外の大学等 | 短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。） | |
|---|---------|---|-----|
| | 年間 | 前半期 | 後半期 |
| 修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あっては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下) | 人 | 人 | 人 |
| GPA等が下位4分の1 | 人 | 人 | 人 |
| 出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況 | 人 | 人 | 人 |
| 計 | 人 | 人 | 人 |

(備考)

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。